

インタビューに協力して下さる方への説明書

1. ごあいさつと研究の目的

はじめまして。私たちは厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「日本の性娯楽施設・産業に係わる人々への支援・予防対策の開発に関する学際的研究」を行う、研究班（主任研究者 東優子／大阪府立大学人間社会学部准教授）です。「日本の性娯楽施設・産業に係わる人々のセクシュアル・ヘルス（性の健康）を促進するため、多様な「しかけ」づくりの検討と開発、さらには実践していくことを目的とする研究活動を行っています。

本日、インタビューさせていただきますテーマは、「日本人セックスワーカーの私にとってのHIV（エイズ）や性感染症予防～したりしなかったり、できたりできなかったりすること～」です。あなた自身がこういった経験や考えをお持ちかを教えていただけますでしょうか？

2. この研究への協力方法について

(1) インタビューへの参加について

今回、日本語を母国語とし、セックスワークをお仕事とする方に個別のインタビューをお願いしています。時間は（研究の説明などの手続きを含めて）約1時間の予定です。インタビューは録音テープに記録させていただきます。インタビューの後、その内容を文書に書き起こして分析を行いたいのですが、書きとりには限界があり、せっかくお話しいただいた内容が不正確にしか再現できなくなる可能性があるためです。

インタビューの中では個人情報を保護するために、お名前やお仕事先など、個人を特定する情報は一切用いません。録音テープは、研究責任者である東優子（大阪府立大学人間社会学部准教授）が施錠できる保管庫に保存し、研究が終了しましたら責任をもって処分いたします。

(2) 説明と同意について

この説明書をお読みいただいた後、研究にご協力をいただけます場合は、別紙の同意書（2通）に署名をいただけますでしょうか？同意書は、あなたと研究責任者が1通ずつ保管することになります。あなたがもし同意されなくても、一切の不利益は生じません。また、同意した後でも、報告書等の発表前に記述した内容をご確認いただき、その際に同意を撤回しいただくことも可能です。

(3) プライバシーの保護

今回協力いただくインタビューの結果は、平成19年度研究成果報告書、平成19年度エイズ対策研究推進事業研究成果発表会（1月22日～2月3日開催予定）、あるいは学会雑誌に発表されることがありますが、あなたやあなたの話に登場する個人のプライバシーには十分に配慮することを約束いたします。

(4) ご質問、お問い合わせ

この研究についてご質問などございましたら、いつでも研究責任者にお問い合わせください。
（東優子 TEL 090-7486-6981 E-mail higashi@sw.osakafu-u.ac.jp）

以上の内容をよくお読みいただき、ご理解いただいた上で、この研究に協力していただける場合は、別紙の同意書に署名または記名し、日付を記入して、インタビュアーにお渡しください。

同意書

私は、「日本の性娯楽施設・産業に係わる人々への支援・予防対策の開発に関する学際的研究」の一環としておこなわれる、インタビューの実施に際して、同研究およびインタビューに関する説明を別紙説明書によりインタビューアーから受け、下記の点を確認したうえで、参加することに同意します。

1. 研究の目的・方法
2. インタビューの方法・内容
3. 本研究への協力について、同意をしなくても不利益をこうむらないこと
4. プライバシーが最大限に尊重されること

研究協力者氏名 _____

同意日 平成 年 月 日

本研究の説明をしたインタビューアー

所属 _____

氏名 _____

ご本人の希望により、インタビュー結果を公表する前に、インタビューアーが再度連絡をとり、ご本人が登場する箇所の記述について確認したいという場合は、こちらに氏名・連絡先をお書きください。

氏名 _____

連絡先 _____

本同意書は、本人と研究責任者である東優子（大阪府立大学）が一部ずつ保管する。

青年期女性における金銭が介在する性行動とセクシュアルヘルスの問題

—web アンケート調査を中心に—

野坂 祐子（大阪教育大学 講師）・東 優子（大阪府立大学 准教授）

研究要旨

携帯電話のアクティブユーザーを中心に分析した前年度の調査（N=2,264）に続き、今年度はより広い層の女性を対象とした調査を実施すべく、高収入アルバイト情報誌サイトで「18歳以上の性交経験者」に対して募集を行い、研究班のサイトに設置されたwebアンケートにPCもしくは携帯電話での回答入力求めた。回収票170票のうち、昨年度調査と同じ年齢群である68名を本調査の分析対象とした（平均年齢22.91±3.55歳）。

結果、性風俗就労経験者は32.4%であり、調査時点で勤務していた者は16.2%であった。性風俗店に勤務せず、個人的に金銭を受け取り何らかの性行為をした者は30.9%であった。また、「セックスをして金銭を受け取った」者は全体の25%だった。相手を見つける手段としては、「出会いサイトの利用」（47.6%）が昨年度と同様に高かった。事前に、「受け取る金額」（76.2%）と「コンドームの使用」（57.1%）が確認されていた。個人的な金銭授受を行った回数は、「10回以下」が43%であった。もっとも最近の経験では、「コンドームをつけてのセックス」が71%であり、「コンドームなしでのセックス」は52%、「フェラチオ（コンドームなし）」は48%であった。個人的な金銭授受の経験は、性風俗店での就労経験とも関連しており、性風俗就労経験者のほうが個人的な金銭授受の経験も高い結果が示された。

金銭授受の有無によるリスク経験を比較したところ、金銭授受がある場合には、「精神的苦痛」や「金銭の不払い」（38%）が挙げられていたのに対し、金銭の授受のない性行為では、「妊娠の心配」（49%）や「コンドームを使えなかった」（37%）が多く挙げられ、金銭授受のない状況でコンドーム不使用のリスクが高まるという昨年度と同様の傾向が示された。

金銭の授受の有無や相手との関係性などの違いによって、女性には異なるセクシュアルヘルスのリスクが存在することが示された。こうした女性の性行動の現状やリスクの実態にあわせた支援や予防啓発が必要であると考えられた。

1. 研究目的

セックスワーカーと一般女性のボーダレス化がみられるという社会背景を受けて、青年期女性の金銭の授受を伴う性行動の実態の一端を把握することを目的に、昨年度からの継続調査を実施した。

昨年度調査では、携帯電話を用いたwebアンケートにより、18歳から29歳の女性2,264名（平均年齢22.7±2.78歳）から、金銭が介在する性行動と金銭の授受を伴わない性行動の両方の状況下における保健行動の実態を把握した。結果、対象者の11.8%が性風俗施設に勤務する以外の状況において、「セックスをしてお金を受け取った」経験があり、挿入行為以外を含む何らかの性行為によって金銭を受け取った経験をもつ者は14.2%であった。相手と知り合う手段としてもっとも多かったものは、「出会い系サイト」の利用であり、事前に「セックスの時にコンドームを使うこと」を確認した者は48.6%いた。しかし、実際には、性行為の際に不快な経験をもった者が

77.3%おり、「コンドームを使わないセックスをした」者も2割程度存在した。しかしながら、金銭の授受のない性行為においても、回答者のうち83.7%が不快体験を経験しており、なかでも「妊娠したかもしれないと、心配したこと」の経験がもっとも多かった。金銭の授受のない性行為においては、「コンドームを使わないセックス」の割合も高く、セクシュアルヘルスの問題が示された。

昨年度調査の対象者は携帯電話でのアンケート回答サイトへの登録者であったことから、携帯電話のアクティブユーザーを多く含むことが推察された。今年度は、より広い層の女性を対象とし、性風俗産業での就労に関心を持つ対象群の性行動を把握することを目的とした。性風俗就労経験と非就労時の性行動の違い等について検討を進めた。

2. 研究方法

1) 調査方法

高収入アルバイト情報誌『ていんくる』（しょういん）

の協力を得て、同社の情報サイト（月間約 20 万件の閲覧）および同誌のメルマガ登録会員（約 1,600 名）を対象に、「18 歳以上の性交経験者」に対してアンケート協力の募集を行い、研究班のホームページ上に設置されたアンケートについて PC と携帯電話から回答できるようにした。調査期間は、2008 年 12 月 18 日から 2009 年 1 月 23 日であった。このほか、研究班の成果発表会でのアンケート票の配布及び回収も行った。

2) 調査内容

本調査は、調査の説明と対象確認の質問（性別、年齢、性交経験の有無）を行ったあと、調査協力についての同意について再確認をし、26 項目の質問項目と感想等を記入する構成とした。質問項目の内容は以下のとおりである。

- ・年齢、職業、学歴、居住地（都道府県）
- ・初交年齢、性交経験人数、性交の頻度
- ・性娯楽産業等での就労経験
- ・金銭の授受を介した性行為の経験の有無
- ・金銭の授受を介した性行為の相手と知り合う手段
- ・金銭の授受を介した性行為における事前の確認事項
- ・金銭の授受を介した性行為時のリスク行動や不快な経験
- ・金銭の授受のない性行為の経験の有無
- ・金銭の授受のない性行為時のリスク行動や不快な経験
- ・HIV 抗体検査、STD 検査の受検経験
- ・STD 感染への対処行動
- ・日常生活におけるセクシュアルヘルスの意識や態度

なお、本調査では性行為を指す言葉として「セックス」を用い、「男性器の挿入を伴う性行動」と説明を付記した。

（本来、セックスはより広い性行為を含む概念であるが、一般的な回答のしやすさを考慮したほか、HIV 感染リスクの高い性行為として男性器の挿入をとりあげることとした。）

（倫理面への配慮）

本研究は、大阪府立大学人間社会学部（主任研究者所属）の研究倫理委員会の審査を受け、承認された。

また、倫理面への配慮として、以下のことを実施した。対象者が本調査に協力するにあたり、アンケート・フォームに研究目的および研究班の方針についての理解と了承のもと、自由意志に基づいて参加できることを明記した。

質問は多肢選択式とし、調査協力者が答えやすいようにした。回答はすべて数値化され、統計的に処理を行ったため、個人情報の扱いにおける問題は生じない。調査結果は、研究班において厳重に保管した。

3. 研究結果

主たる調査結果は、以下のとおりである。

1) 対象者の属性

全体の回収票は 170 票であった。内訳は、web アンケートへの回答が 109 票、成果発表会等での配布・回収票が 50 票であった。このうち、有効回答票は 159 票（有効回答率 93.5%）であった。平均年齢は、 28.96 ± 7.09 歳であった。

このうち、本稿で紹介する分析では、昨年度調査と同じ 18 歳から 29 歳の年齢群を抽出し、web アンケートでの回答である 68 票についての結果について取り上げる。

本分析対象者の 68 名の平均年齢は、 22.91 ± 3.55 歳であった。年齢分布は図 1 のとおりである。

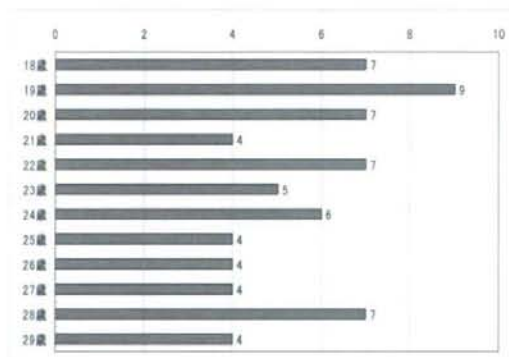


図 1. 回答者の年齢分布 (n=68)

回答時の立場は、「学生」がもっとも多く 38% を占めており、次いで「常勤職員」が 22%、「アルバイト・パート」が 19%、「契約・派遣社員」が 10% であった。

回答者の学歴は、「大学在学中」が 32%、「短大・専門学卒」が 19%、「高校卒」が 18%、「大学卒」が 12% であった。

居住地域は、「東京」が 35% ともっとも多く、「埼玉」と「大阪」がともに 9%、「兵庫」が 7%、「北海道」が 6% であり、そのほかは 5% 以下から 0% であった。

2) 性交経験について

男性と初めてセックスをした年齢は、13歳から29歳までの記述があり、平均初交年齢は18.00±2.90歳であった〔図2参照〕。

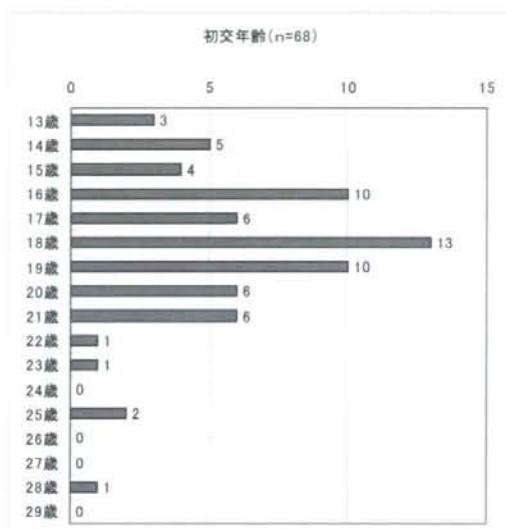


図2. 初交年齢 (自由記述)

これまでにセックスをした男性の人数については、「1人」と記述した人が19名と最も多かったが、人数には幅が広く、個人差が大きいが示された。

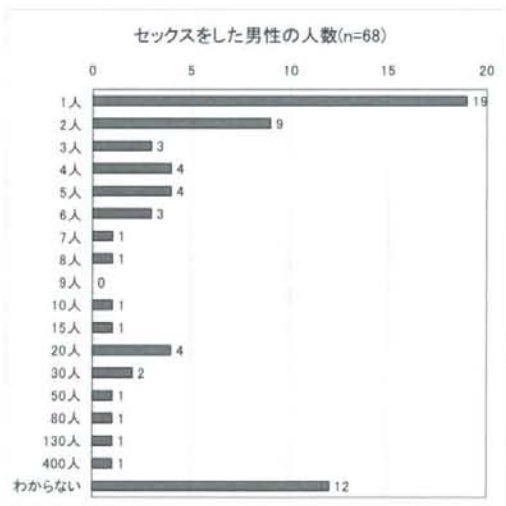


図3. 性交経験人数 (自由記述)

この1年間に男性とセックスをした頻度は、「週に2~3回程度」が22%と最も多く、次いで「月に2~3回」(19%)、「週に1回程度」(15%)、「年に1~2回以下」

(13%)、「年に3~5回程度」(10%)だった。

3) 性風俗店での就労経験

過去の性風俗店での就労経験は、「経験がない」と回答した者が46名(67.6%)であり、22名(32.4%)は何らかの風俗店での勤務経験を有していた。職種別にみると、「クラブやバーなどのコンパニオン」(19.1%)、「ピンサロやファッションヘルス」・「デリバリーヘルス」(ともに13.2%)、「ソープランド」(8.8%)であった。

性風俗店での就労経験者30名のうち、調査時点でも勤務していた者は19名(63%)であり、全体の16.2%だった。職種別内訳は「デリバリーヘルス」(17%)、「ソープランド」(13%)、「クラブやバーなどのコンパニオン」(10%)、「ピンサロやファッションヘルス」(7%)であった。

過去に性風俗店での就労経験がある者22名に、サービスとしてどのような性行為を行ったことがあるかを尋ねたところ、図4のような結果であった。提示した行為のいずれもやっていない者が27%であり、「ホンパン(※挿入を伴うセックス)」、「クニニリングス」、「前立腺/アナルマッサージ」以外は、過半数がサービス提供をした経験を持っていた(複数回答による)。〔図4参照〕

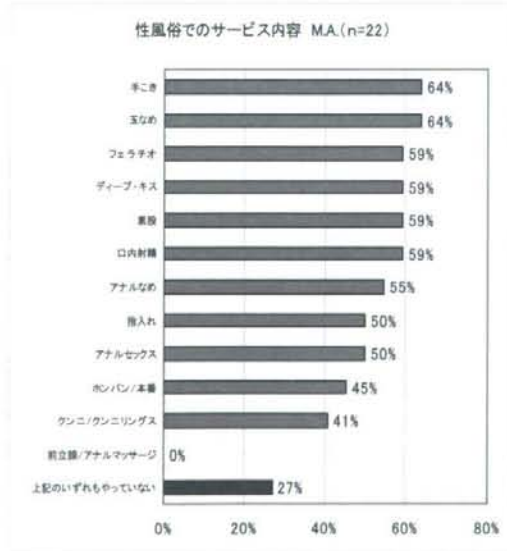


図4. 性風俗店でやったことのあるサービス内容 (M.A.)

4) 個人的な金銭授受を伴う性行為の経験

性風俗店に勤務せずに、個人的に男性と性行為をして金

銭を受け取った経験について尋ねたところ、「同席や性行為をしてお金を受け取ったことはない」者が40名(59%)であり、何らかの行為をしてお金を受け取った経験のある者は28名(41%)であった。

個人的な金銭授受の経験の詳細は、「性的なことはしなかったが食事やカラオケなどにつきあい金銭を受け取った(以下、「同伴」とする)」者が17名(25%)、「セックスをしてお金を受け取った」者も同じく17名(25%)、「男性の性器を触ったり、なめるなどの行為(挿入なし)をしてお金を受け取った」者と「自分の性器を触らせたり、なめさせるなどの行為(挿入なし)をしてお金を受け取った」者が各8名(12%)であった。〔図5参照〕

このうち、同伴のみを除き、何らかの性行為をしてお金を受け取った経験のある者は21名であり、全体の30.9%であった。

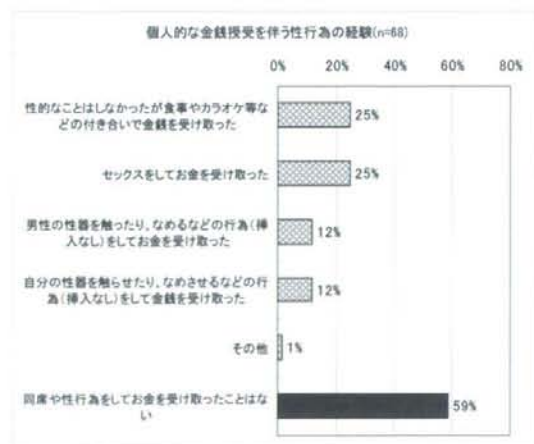


図5. 個人的な金銭授受を伴う性行為の経験 (M.A.)

個人的に何らかの性行為をしてお金を受け取った経験のある者(21名)に、どのような行為をしたかを尋ねた結果(複数回答)が、図6である。

「フェラチオ」と「コンドームをつけてのセックス」が86%であり、次いで、「男性の性器を触る」(76%)、「自分の性器を触らせたり、なめさせるなどの行為(挿入なし)」(67%)であった。「コンドームをつけてのフェラチオ」「コンドームなしでのセックス」「口内射精」はいずれも29%であった。

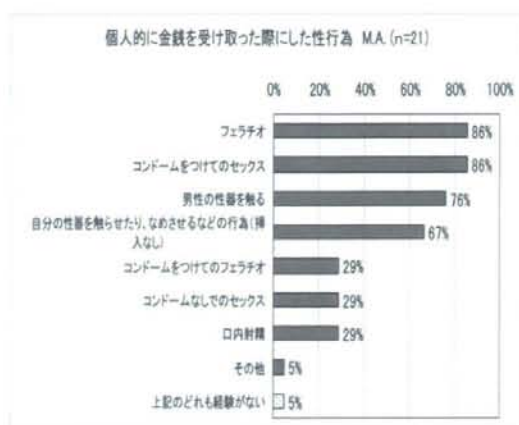


図6. 個人的に金銭を受け取った際にした性行為 (M.A.)

また、個人的に何らかの性行為をしてお金を受け取った経験のある者(21名)が、相手と知り合った方法についての結果(複数回答)が、図7である。

47.6%と最も多かったのが「出会い系を使って」というものであり、次いで「ナンパ」「テレクラ・ダイヤルQ2・伝言ダイヤルを通じて」「連れ出し」がそれぞれ28.6%であった。

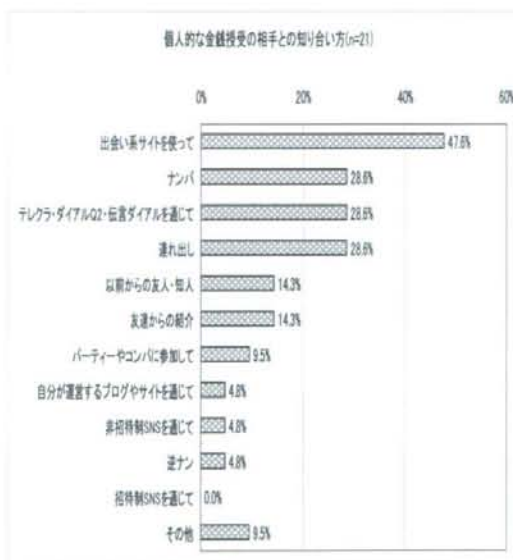


図7. 個人的な金銭授受の相手との知り合い方 (M.A.)

また、個人的な金銭授受を伴う性行為の回数は、「10回以下」が43%であり、「30回以下」が14%であった。「わからない」の回答が24%であった。〔図8参照〕

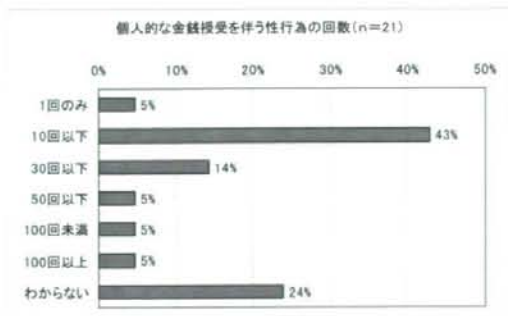


図8. 個人的な金銭授受を伴う性行為の回数

また、もっとも最近、何らかの性行為をしてお金を受け取った時期は、「1年以上前」の人がほとんどであった。

個人的な金銭授受を伴う性行為において、もっとも最近行った行為についての結果（複数回答）が、図9である。

「コンドームをつけてのセックス」が71%ともっとも多く、次いで「コンドームなしでのセックス」と「男性の性器を触る」がそれぞれ52%であった。「フェラチオ（コンドームなし）」は48%であった。

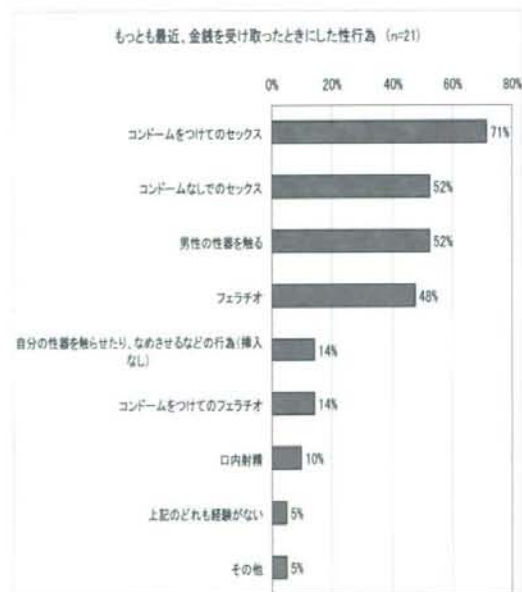


図9. もっとも最近の金銭授受を伴う性行為の内容

個人的な金銭授受を伴う性行為によって得た金額は、「3万円以上」が48%、次いで「1万円～2万円」が38%、「2万円～3万円」「5千円～1万円」がそれぞれ10%であった。

〔図10参照〕

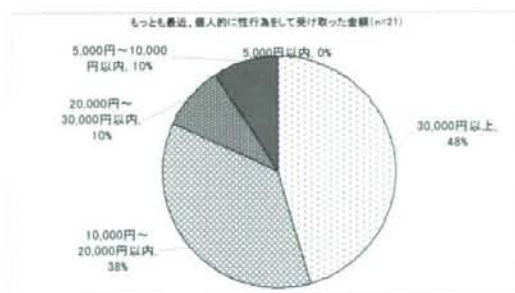


図10. もっとも最近、個人的に性行為をして得た金額

個人的な金銭授受を伴う性行為において、もっとも最近、事前に確認した事柄の結果（複数回答）が、図11である。

「受け取る金額」を確認した人が76.2%ともっとも多く、次いで「セックスのときにコンドームを使うこと」と「相手の携帯番号」がそれぞれ57.1%であった。「割り切った関係であること」「自分がしたくない、あるいはしてほしくない行為（NG行為）について」「相手の男性に関する個人的な情報（年齢や性格など）」がそれぞれ47.6%であった。「事前に何も確認していない」人はいなかった。



図11. 個人的な金銭授受を伴う性行為時の事前確認事項

個人的な金銭授受を伴う性行為において、これまでに経験したことがあるものの結果（複数回答）の結果が、図12である。これらはセクシャルヘルスのリスクとなりうるものとして提示した項目である。

「事前に約束していたお金を払ってもらえなかった」「自分のなかで精神的苦痛が残った」がともに38%ともっとも多く、次いで「相手の容姿や性格が嫌だった」(29%)、「自分がしてほしくない性行為をされた、させられた」

(24%)、「コンドームを使いたかったのに、使わずにセックスをした」(24%)が挙げられた。

セクシュアルヘルスのリスクとなりうる経験が「ない」者は29%であった。

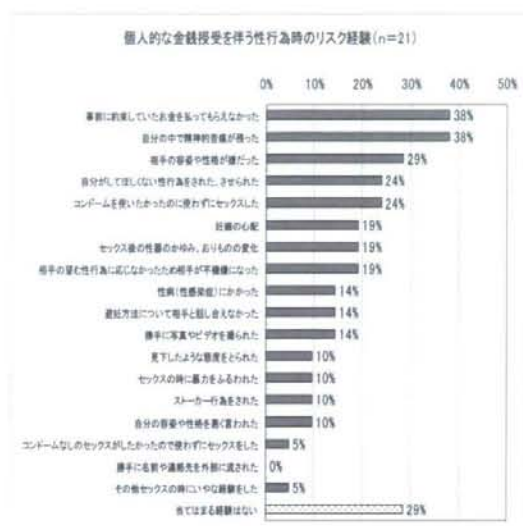


図 12. 個人的な金銭授受における性行為時のリスク経験

5) 金銭授受を伴わない性行為の経験

仕事以外で、お金を受け取らないで男性とセックスをした経験がある者は44名、お金を受け取らないセックスの経験がない者が11名、「わからない」と回答した者が11名であった。金銭授受を伴わない性行為の経験人数は、自由記述での記入を求めたが、便宜上人数を分類すると、「1~2人」が19名、「3~5人」が13名、「6~10人」が5名、「11~20人」が5名、「20~50人」が4名という結果であった。

金銭授受を伴わない性行為において、これまでにセクシュアルヘルスのリスクとなりうるような経験をしたことがあるか尋ねた結果(複数回答)が、図13である。

もっとも多かったものが「妊娠したかもしれないと心配したこと」であり、49%を占めた。次いで「コンドームを使いたかったのに、使わずにセックスをした」(37%)、「セックスのあとに、性器のかゆみやおりもの(膣分泌液)の変化があった」(26%)、「避妊方法について、相手と思うように話し合えなかった」(21%)が挙げられた。

セクシュアルヘルスのリスクとなりうる経験が「ない」者は25%であった。

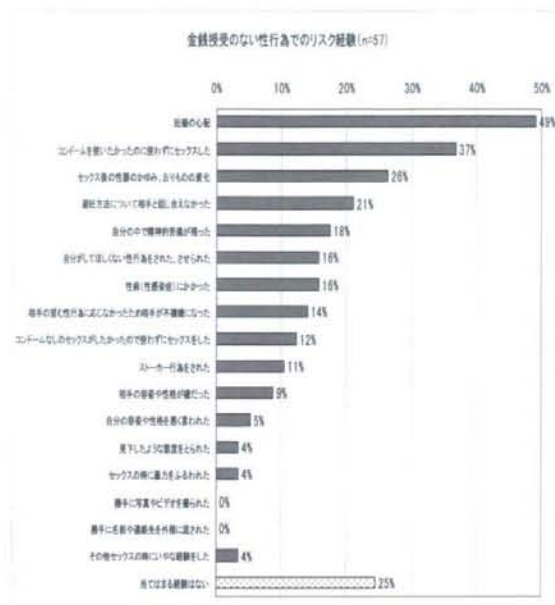


図 13. 金銭授受を伴わない性行為時のリスク経験

もっとも最近、お金を受け取らないセックスをした時期は、「1ヶ月以内」が70%ともっとも多く、次いで「1年以上前」(14%)、「半年以上前」(9%)、「半年以内」(7%)であった。

もっとも最近、お金を受け取らないセックスをした相手は、「特定の男性(法律婚もせず、一緒に暮らしていない男性、恋人を含む)」が75%ともっとも多く、次いで「同棲者(法律婚をしていないが一緒に暮らしている男性)」(12%)、「不特定の男性(ただし、金銭の授受を伴わない)」(9%)、「配偶者(法律婚をして一緒に暮らしている男性)」(4%)であった。

6) HIVおよび性感染症の受検・罹患経験

これまでにHIV抗体検査を受けた経験のある者は21名(31%)、ない者は44名(65%)、「わからない」と回答した者は3名(4%)であった。

HIV以外の性感染症(クラミジアや淋病などの性病)の検査を受けた経験のある者は30名(44%)、ない者は37名(54%)、「わからない」と回答した者は1名(1%)であった。

過去に、性感染症に罹患した経験については、「性感染症にかかったことはないと思う」者が38名(55.9%)と

もっとも多く、次いで「性感染症にかかり、病院で治療したことがある」者が19名(27.9%)、「性感染症にかかったかもしれないと思ったが、放っておいたら症状が消えた」者が2名(2.9%)、「性感染症にかかったかもしれないと思ったので自分で治した」者が1名(1.5%)であった。「わからない」と回答した者は8名(11.8%)であった。

また、セクシュアルヘルスに関する行動として、ふだん行っているものを選択した結果(複数回答)が、図14である。

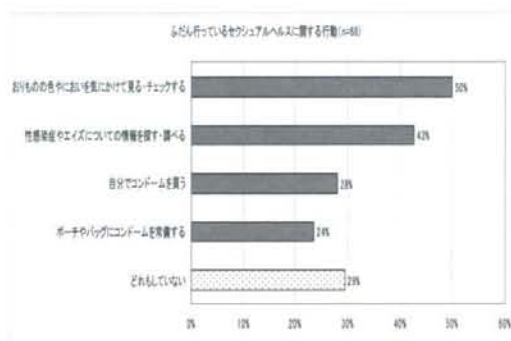


図14. ふだん行っているセクシュアルヘルスに関する行動

6) 自由記述欄

調査の最後に、調査の感想やコメントを入力してもらったところ、次のような記述が得られた(一部抜粋)。

- ・あまり意識していなかった事もあったので、反省です。
- ・これまで性感染症についてもいろいろ勉強したけど、いざセックスしたときにコンドームなしだったのが、自分の中でちょっと消化しきれないっていうか…そのときのことが原因で性感染症を疑われて婦人科を受診することになった。
- ・コンドームでは避妊が100%ではないことなどの情報がいきわたってはず、特に今、母親である世代の認識が低いために、今の若い世代への情報の伝達が不十分であると思う。女性向けの風俗店や、女性向けのAVや雑誌(カッコいい男性が出演するようなもの)が、実は求められていると思う。男性だけが興味があるという考えは古い。
- ・もっと男性に一時の快楽より性感染症について学んで欲しいと思う。
- ・子供をつくる覚悟がないなら、コンドームは絶対だと思う。
- ・風俗で働いている人たちよりも、素人さんの方が危ない。ほとんどの人が性病検査に行っていないから。

- ・セックスや性風俗で働くことについて、悪いことは思いますが、私も不特定の男性とのSEX(金銭の授受は関係なく)していた頃の理由は「淋しかったから」です。今はその行為こそが自分を淋しくさせていたのだと思いますが、分かっているけど抑えられない淋しさがうずまいているのだと思います。
- ・HIVの事は調べてもよくわからない。色んな情報があってもどれが本当なのか…正しい知識が知りたい。
- ・素股で病気やエイズに感染するかもしれないことが心配です。
- ・私たち風俗嬢が持っている経験からくる知識は、誰にも語られず、どこにも蓄積されずに消えてしまいます。店の言うことはデタラメだし、若い人や初心者の人がひとりで悩まないですむように、共有できる場所があればと思います。あとは、遊びにくる男性の性病意識が低すぎるのが悩みな。
- ・ヘルスで働いていましたが、コンドームなしでフェラチオや素股をするため、性病になることがあり、今は粘膜接触がない回春マッサージ店で働いています。しかし、一人から受取る単価が低いので、またヘルスに戻ろうかとも思います。しかし、完全ゴム着OKのお店があまりにも少なく、容姿があまりよくないため、面接で落とされてしまいました。仕方なく、ソープに行こうと思っていますが、吉原はNS(ノースキン)のお店が多く、以前働いたお店で、NSで接客するように勧められ辞めたのですが、性感染症を完全に予防しようとすると稼げません。

4. 考察

1) 対象群(サンプル)の特徴について

本分析は、今年度で得られた回答170票のうち、高収入アルバイト雑誌『ていんくる』のサイトやメルマガの視聴者・読者のうち、18歳から29歳の女性68名のデータを対象に行った。

おもに性風俗店での就労情報が掲載された雑誌の読者層であるため、性風俗店での勤務経験が昨年度データよりも高く、性風俗産業への親和性の高い層を含んでいると考えられる。

また、平均年齢は22.91±3.55歳であったことから、「学生」の占める割合が高く(38%)、昨年度データでは2割を占めた「主婦」層が少数(2%)にとどまった。

初交年齢の平均は、18.00±2.90歳であったが、2005年に実施された日本性教育協会による調査(2007)では、女子の性交経験率は「高校生」で3割、「大学生」で6割が示されていることから、今回の対象者の初交年齢もそれ

に準ずるか、若干、早めの傾向があると考えられる。

性交相手の人数は、「1人」と答えた者が回答者の3割以上を占めた。経験人数は個人差が大きかったため、平均的な数値を出すことができなかった。

今年度調査はサンプルサイズが小さく、十分な統計処理ができないことから、以下に、回答傾向について昨年度調査の結果と照らし合わせながら検討していく。

2) 性風俗就労経験について

性風俗産業での就労経験は、昨年度調査では25.4%であったのに比べ、今年度調査では32.4%であり、3人に一人が就労経験を有していた。調査時点での就労率は、経験率の半数程度であり、16.2%が性風俗業務に従事していた。

性風俗店での勤務経験について、昨年度調査(n=2264)と比較したものが、図15である。

また、性風俗勤務経験と個人的な金銭の授受を伴う性行為の経験をクロス集計した結果が、図16である。性風俗での就労経験がない人では、個人的にお金を受け取って性行為をしたことはない人が82.6%を占めるが、性風俗店のうち「バーやクラブのコンパニオン」のみの経験がある人では、個人的な金銭授受を伴う性行為をした人が42.9%となり(性行為はせずに同席のみをして金銭を受け取った人も42.9%)、「ピンサロ・ファッションヘルス」「デリバリーヘルス」「ソープランド」のいずれかの職種として勤務した人では、93.3%が個人的にお金を受け取って性行為をした経験も持っていた。

このことから、性風俗の就労経験(職種)と、個人的にお金を受け取って性行為をする経験には関連があることが示唆された。

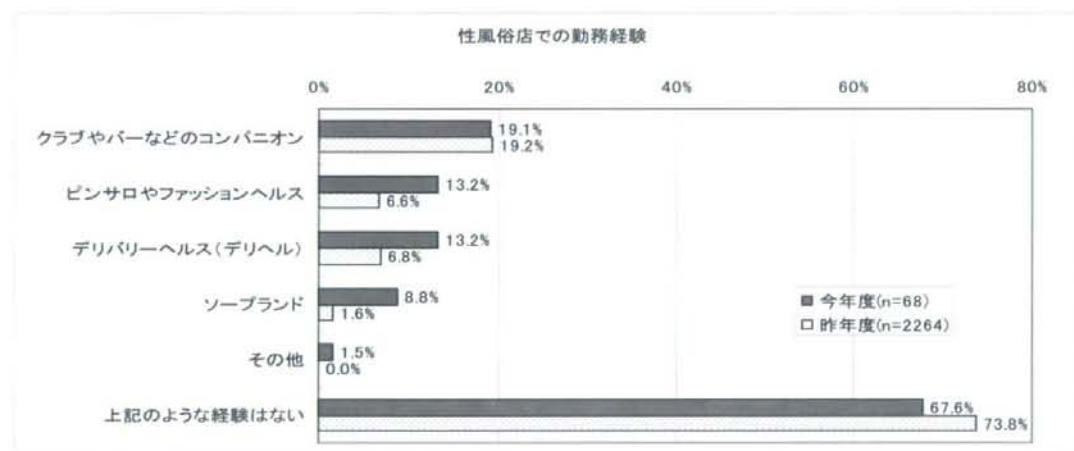


図15. 性風俗店での勤務経験 (今年度調査と昨年度調査比較)

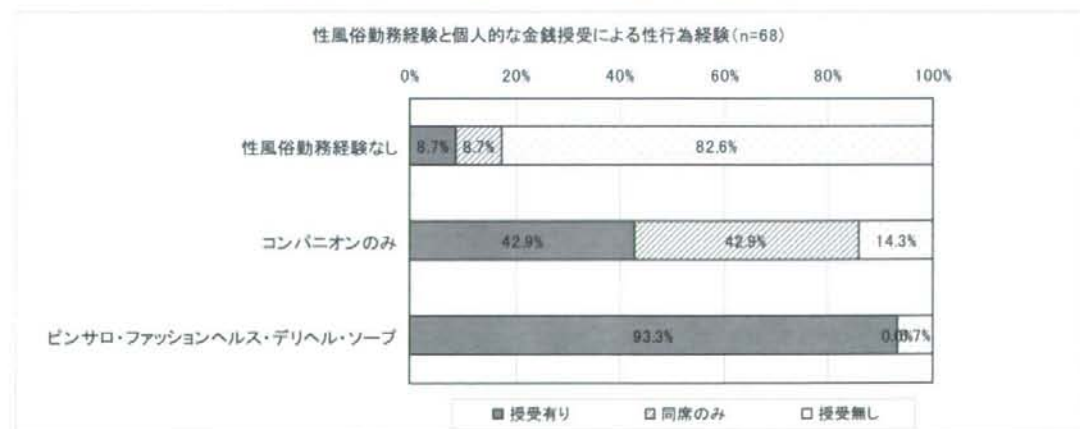


図16. 性風俗勤務経験と個人的な金銭授受による性行為経験 (今年度調査, n=68)

3) 個人的な金銭授受を伴う性行為について

個人的な金銭授受を伴う行為の経験について、今年度調査と昨年度調査の結果を比較したグラフが、図 17 である。

「性的なことはしなかったが、男性との食事やカラオケなどにつきあい（同席して）、お金を受け取った」人（今年度：25%、昨年度：6.6%）だけの経験をもつ人を除き、そのほかの「セックス」「自分の性器を触らせたり、なめさせる」「男性の性器を触ったり、なめる」といった何ら

かの性行為をした人は、今年度調査で 21 名（30.9%）であった。昨年度調査では 14.2%であった。

また、そうした相手との知り合い方について尋ねたところ、昨年度と今年度ともに「出会い系サイトの利用」がもっとも多かった（今年度：47.6%、昨年度：62.3%）。全体的な傾向は、昨年度と同様であり、「ナンパ」「テレクラ・ダイヤル Q2・伝言ダイヤル」が続いた。今年度は、「（風俗店からの）連れ出し」が 28.6%であった〔図 18 参照〕。

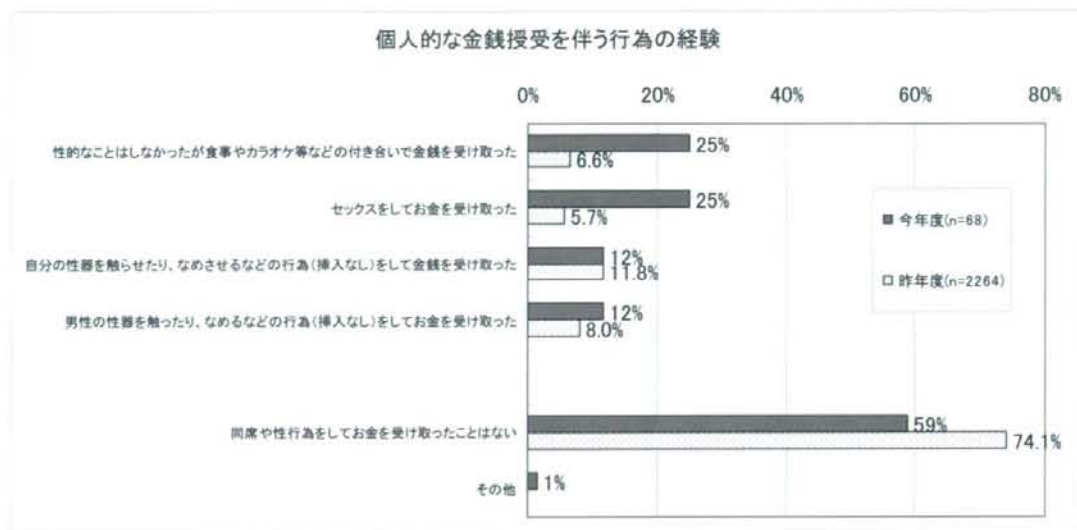


図 17. 個人的な金銭授受を伴う行為の経験（年度比較）

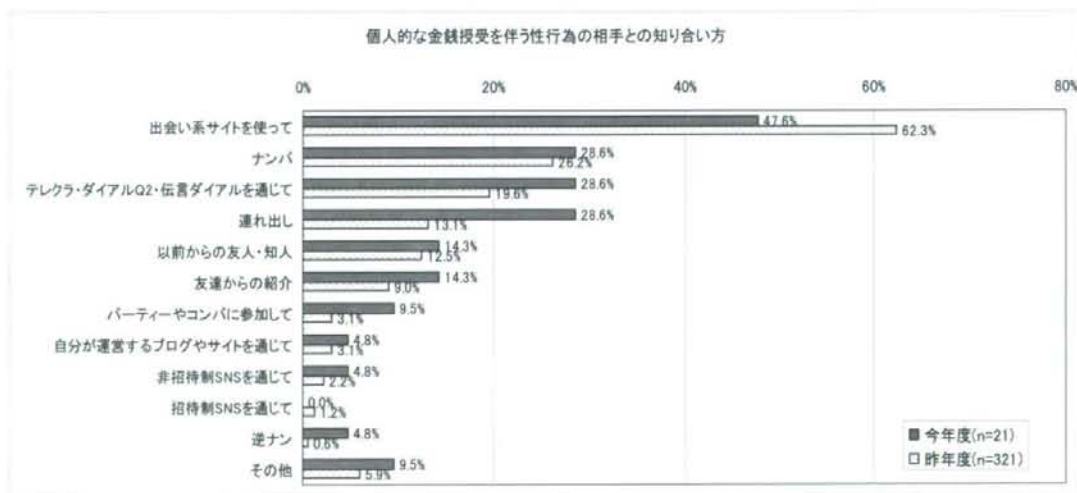


図 18. 個人的な金銭授受を伴う性行為の相手との知り合い方（年度比較）

個人的な金銭授受を伴う性行為時において、事前に確認する事柄について、今年度調査と昨年度調査の結果を示したものが、図 19 である。今年度調査では、「受け取る金額」(76.2%) がもっとも多く、次いで「セックスのときに、コンドームを使うこと」「相手の携帯番号」(57.1%) であった。昨年度は、「相手の携帯番号」がもっとも多く(63.9%)、次いで「受けとる金額」(52.3%) であった。事前にコンドーム使用について確認しておくことについては、今年度調査のほうが高い数値が示された。

また、今年度調査について、性行為時のセクシュアルヘルスのリスク経験について、金銭授受の有無別に比較したところ〔図 20 参照〕、金銭授受があるときには「自分のな

かで精神的苦痛が残った」(38.1%)、「事前に約束していたお金が払ってもらえなかった」(38.0%) が高く、次いで「相手の容姿や性格が嫌だった」(29%)、「自分ではコンドームを使いたかったのに、使わずにセックスをした」「自分がして欲しくない性行為をされた、させられた」(ともに 24%) であった。一方、金銭授受のないときには「妊娠したかもしれないと心配した」がもっとも高く(49%)、次いで「自分ではコンドームを使いたかったのに、使わずにセックスをした」(37%)、「セックスのあとに、性器のかゆみやおりもの(膣分泌液)の変化があった」(26%) であった。

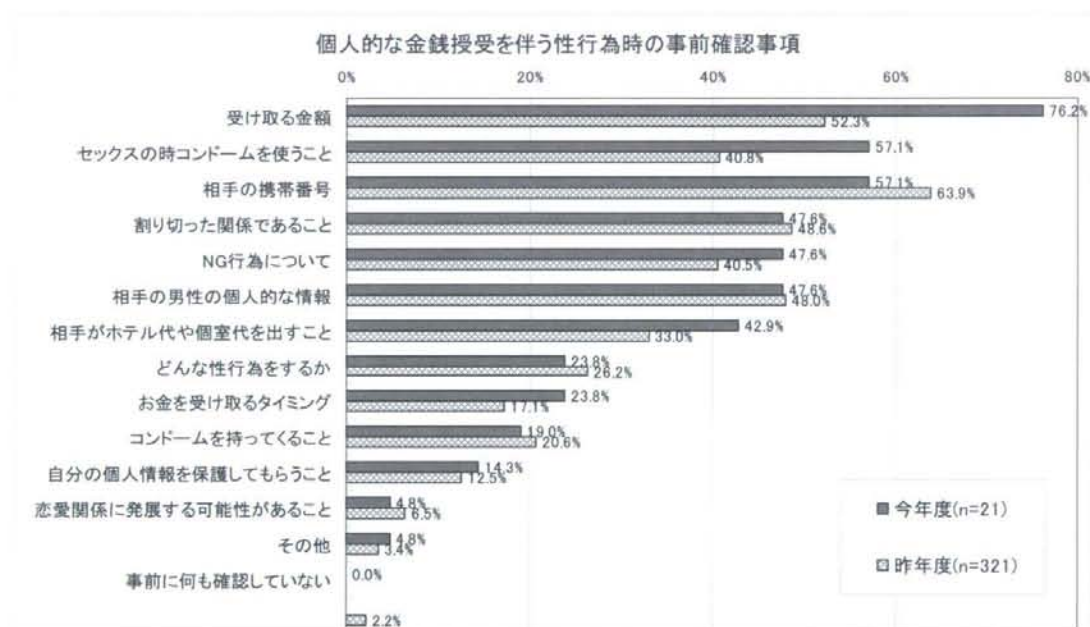


図 19. 個人的な金銭授受を伴う性行為時の事前確認事項

性行為時のリスク経験（金銭の授受あり×なし）今年度調査

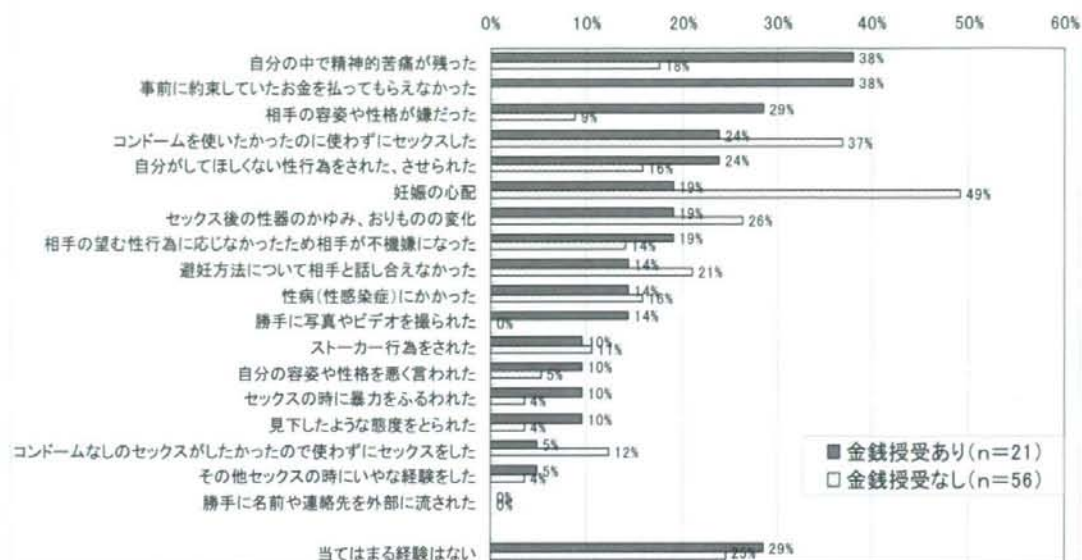


図 20. 金銭授受の有無による性行為時のリスク経験

金銭授受経験のある者の、金銭授受あり時となし時でのリスク経験 (n=21)



図 21. 金銭授受がある者の、金銭授受あり時となし時でのリスク経験

さらに、今年度調査対象者のうち、「個人的な金銭授受を伴う性行為経験のある者」(21名)について、金銭授受があった時となかった時のリスク経験の違いを、図21で示した。リスク経験としては、金銭授受がない時の性行為において「妊娠したかもしれないと心配した」が48%と最も高かった。また金銭授受がない時の性行為では、「自分ではコンドームを使いたかったのに、使わずにセックスをした」(33%)、「セックスのあとに、性器のかゆみやおりもの(膣分泌液)の変化があった」(33%)、「性感染症にかかった」(29%)など、コンドームを使わなかったことによるセクシュアルヘルスの問題が生じていた。また、金銭授受がない時のセックスでは「自分がコンドームなしのセックスをしたかったので、使わずにセックスをした」という自発的なコンドーム不使用行動も24%にのぼった。一方、同じ対象者において、金銭授受がない時の性行為では、「自分のなかで精神的苦痛が残った」(38.1%)、「事前に約束していたお金を払ってもらえなかった」(38%)、「相手の容姿や性格が嫌だった」(28.6%)が挙げられた。「あてはまる経験はない」という回答は、金銭授受がある時のほうが高かった(28.6%)。しかしながら、金銭授受がある時には、「勝手に写真やビデオをとられた」(14.3%)、「相手から、ストーカー行為(つきまとい)をされた」「セックスのときに暴力を振るわれた」(それぞれ9.5%)など、身体的・精神的暴力をふるわれたという経験も報告された。

4) HIVおよび性感染症の受検・罹患経験について

HIV抗体検査と性感染症の検査の受検率は、どちらも「経験なし」の者の割合が高かった。しかしながら、性感染症に罹患した経験については、「かかったことがないと思う」と回答した者は半数程度(55.9%)であり、それ以外は医療機関での治療経験があったり、自覚症状があったりする者であり、調査対象の年齢群においては、性感染症は身近な疾患の一つであるといえる。予防行動や検査行動へつなげる手立てが必要であると思われた。

日常生活におけるセクシュアルヘルスへの関心や行動については、「おりものの色やにおいを気にかけてみる、チェックする」と答えた者は半数(50%)であり、「ボーチやバッグにコンドームを常備する」と答えた者は、さら

に半数の24%にとどまった。しかしながら、4人に一人の女性はコンドームを持ち歩くなど積極的な準備行動をとることができており、今後より広く、こうした態度形成をもたらす介入が必要であるといえる。

5. 自己評価

1) 達成度について

昨年度調査に続き、対象者層を性風俗産業への親和性の高い層に広げられたことは、さまざまな女性の性行動を把握するうえで意義があると思われる。また、webアンケートの手法をとることで、記入時のプライバシーが守られ、地域に限定されない回答票を回収することができた。昨年度調査の結果と比較検討することで、性風俗勤務状況の違いや金銭授受の有無による差異をより明確にすることができた。

本研究の限界と課題としては、予定していたサンプルサイズが得られなかったため、数量的データとしては結果を一般化できないことが挙げられる。高収入アルバイト情報誌の読者・視聴者を対象に募集を行ったが、調査研究への関心を高め、回答しやすいものにする工夫が必要であった。

2) 研究成果の学術的・国際的・社会的意義について

本研究が目指した「性風俗施設に勤務する以外の状況における金銭が介在する性行為」に関する調査は、わが国では初めて行われたものであり、継続的な調査が実施できたことは、今後のHIVおよびSTI感染予防の教育や有効な施策を検討するうえで役立つ情報となりうる。ひきつづき、対象者の年齢や社会的背景をふまえた分析を行うことで、国際的・社会的意義もより高められると考える。

3) 今後の展望について

本調査では、webアンケートを用いた量的調査により、青年期女性の性行動についての傾向を把握した。今後は、本調査の結果について、より詳細な分析を行うことで、状況による性行動の違いやリスクの差異を明らかにする。

6. 結論

性風俗店でのアルバイトなど高収入の求人情報誌の協力を得て、18歳以上の女性の性行動と性の健康に関するwebアンケート調査を実施した。調査期間は、2008年12

月18日から2009年1月23日であった。170票を回収し、159票の有効回答票（有効回答率93.5%、平均年齢28.96±7.09歳）のうち、本調査では昨年度調査（回答者2,264名、平均年齢23歳）との比較のため、同年齢群（68名）のデータを分析した。平均年齢は、22.91±3.55歳だった。

対象者の初交年齢は、18.00±2.90歳であった。性交経験人数は個人差が大きかった。この1年間の性交頻度は、「週に2～3回」（22%）、「月に2～3回」（19%）だった。

性風俗就労経験者は32.4%であった（昨年度調査では25.4%）。うち、調査時点で性風俗店に就労していた者は経験者のうち約6割であり、全体のうち16.2%であった。

性風俗店に勤務せず、個人的に金銭を受け取り何らかの性行為をした者は、21名（30.9%）であった（昨年度調査では、14.2%）。また、「セックスをして金銭を受け取った」者は、17名（全体の25%）だった。

個人的に金銭を得た際に行った性行為は、「フェラチオ」と「コンドームをつけてのセックス」が86%であり、「コンドームなしでのセックス」と「口内射精」は29%であった。フェラチオ時には、コンドームを使わない場合が多かった（「コンドームをつけてのフェラチオ」は29%）。

相手を見つける手段としては、「出会いサイトの利用」（47.6%）が昨年度と同様にもっとも高かった。次いで、「ナンパ」や「連れ出し」が挙げられた（28.6%）。

個人的な金銭授受を伴う性行為の事前の確認事項としては、「受け取る金額」（76.2%）と「コンドームの使用」

（57.1%）が挙げられていた。こうした経験の回数は、「10回以下」が43%であった。時期も「1年以上前」だった。

もっとも最近の金銭授受の際にした性行為の内容では、「コンドームをつけてのセックス」が71%ともっとも多かったが、「コンドームなしでのセックス」も52%だった。「フェラチオ（コンドームなし）」も48%であり、コンドームを使わないセックスやオーラルセックスをしている現状が示された。それらによって受け取る金額は、「3万円以上」が48%、「1万円～2万円」が38%であった。

個人的な金銭授受の経験は、性風俗店での就労経験とも関連しており、性風俗就労経験者のほうが個人的な金銭授受の経験も高い結果が示された。

金銭授受の有無による性行為時のリスク経験を比較したところ、金銭授受がある場合には、「精神的苦痛」や「金銭の不払い」（38%）が挙げられていたのに対し、金銭の授受のない性行為では、「妊娠の心配」（49%）や「コンドームを使えなかった」（37%）が多く挙がり、昨年度とほぼ同様の傾向が示された。

金銭の授受の有無や相手との関係性などの違いによって、女性には異なるセクシュアルヘルスのリスクが存在することが示された。こうした女性の性行動の現状やリスクの実態にあわせた支援や予防啓発が必要である。

7. 知的所有権の出願・取得状況（予定を含む）

特記事項はなし。

研究発表

分担研究者

野坂祐子

- 1) 野坂祐子 被害者支援. 藤岡淳子編『対人関係における暴力—その理解と回復への手立て』, 岩崎学術出版社, p. 131-148, 2008.
- 2) 野坂祐子 思春期男子の性的発達 —中高生へのフィールドワークから見えてくるもの—. 財団法人日本性教育協会編『思春期の性衝動～男の子の性を考える～ (性科学ハンドブック vol. 11)』, 財団法人日本性教育協会 p. 45-65, 2008.
- 3) 野坂祐子 エスノグラフィックな手法とは. 無藤隆・佐久間路子編『発達心理学 (心理学のポイント・シリーズ)』, 学文社, p. 140-141, 2008.
- 4) 野坂祐子 性暴力被害にあった子どもの支援. 藤森和美編『学校危機と子どもの心の危機管理』, 誠信書房, p. 72-86, 2009.
- 5) 野坂祐子 性の成熟が思春期の子どもに与える影響 (p. 172-173), いじめを防ぐには (p. 198-199), 観察法 (p. 274-275), 危機介入とは (p. 304-305, 無藤隆ら編『よくわかる心理学』, ミネルヴァ書房, 2009.

基本集計（2008年度女性調査 web アンケート）

表1. [確認質問事項] あなたの年齢を教えてください。

カテゴリ	件数	(除不) %
17歳未満	0	0%
18歳	7	10%
19歳	9	13%
20歳	7	10%
21歳	4	6%
22歳	7	10%
23歳	5	7%
24歳	6	9%
25歳	4	6%
26歳	4	6%
27歳	4	6%
28歳	7	10%
29歳	4	6%
サンプル数	68	

表2. [Q1] あなたが最初に男性とセックスをした年齢について教えてください。

ここでいうセックスとは、男性器の挿入をとまなう性行為のことです。

カテゴリ	件数	(除不) %
13歳	3	4%
14歳	5	7%
15歳	4	6%
16歳	10	15%
17歳	6	9%
18歳	13	19%
19歳	10	15%
20歳	6	9%
21歳	6	9%
22歳	1	1%
23歳	1	1%
24歳	0	0%
25歳	2	3%
26歳	0	0%
27歳	0	0%
28歳	1	1%
29歳	0	0%
サンプル数	68	

表3. [Q2] あなたがこれまでに男性とセックスをした人数について教えてください。

ここでいうセックスとは、男性器の挿入をとまなう性行為のことです。

カテゴリ	件数		1と答えた人の具体数	件数
① () 人	56	→	1人	19
②わからない	12		2人	9
サンプル数	68		3人	3
			4人	4
			5人	4
			6人	3
			7人	1
			8人	1
			9人	0
			10人	1
			15人	1
			20人	4
			30人	2
			50人	1
			80人	1
			130人	1
			400人	1
			わからない	12
			サンプル数	56

表4. [Q3] この1年間に、男性としたセックスの頻度はどれくらいでしたか？

あてはまるもっとも近い回数を1つ選んでください。

カテゴリ	件数	(除不) %
年に1~2回以下	9	13%
年に3~5回程度	7	10%
2ヶ月に1回程度	3	4%
月に1回程度	6	9%
月に2~3回程度	13	19%
週に1回程度	10	15%
週に2~3回程度	15	22%
週に4回程度	2	3%
週に5回程度	3	4%
	68	

表5. [Q4] あなたの現在の職業・立場として、もっとも近いものを1つ選んでください。

カテゴリ	件数	(除不) %
学生	26	38%
アルバイト・パート	13	19%
契約・派遣職員	7	10%
常勤職員	15	22%
主婦(家事専業)	1	1%
家事手伝い	1	1%
無職	1	1%
その他	4	6%
サンプル数	68	

表6. [Q5] あなたの学歴を教えてください。あてはまるものを1つ選んでください。

カテゴリ	件数	(除不) %
中学校卒業	4	6%
高等学校在学	3	4%
高等学校中退	0	0%
高等学校卒業	12	18%
高専・短大・専門学校在学	2	3%
高専・短大・専門学校中退	2	3%
高専・短大・専門学校卒業	13	19%
大学在学	22	32%
大学中退	1	1%
大学卒業	8	12%
大学院在学	1	1%
大学院中退・修了	0	0%
その他	0	0%
サンプル数	68	

表7. [Q6] あなたが住んでいる都道府県を1つ選んでください。

カテゴリ	件数	(除不) %
北海道	4	6%
青森	0	0%
岩手	0	0%
宮城	0	0%
秋田	0	0%
山形	0	0%
福島	1	1%
東京	24	35%

神奈川	3	4%
埼玉	6	9%
千葉	2	3%
茨城	2	3%
栃木	0	0%
群馬	0	0%
山梨	1	1%
新潟	1	1%
長野	1	1%
富山	0	0%
石川	0	0%
福井	0	0%
愛知	0	0%
岐阜	3	4%
静岡	2	3%
三重	0	0%
大阪	6	9%
兵庫	5	7%
京都	0	0%
滋賀	2	3%
奈良	1	1%
和歌山	1	1%
鳥取	1	1%
島根	0	0%
岡山	1	1%
広島	1	1%
山口	0	0%
徳島	0	0%
香川	0	0%
愛媛	0	0%
高知	0	0%
福岡	0	0%
佐賀	0	0%
長崎	0	0%
熊本	0	0%
大分	0	0%
宮崎	0	0%
鹿児島	0	0%